

1. 学校の状況と地域の実態

- 高度経済成長を機に農地の宅地化と中小工場の進出が始まった。また、経済の空洞化等から工場の移転が行われ、その跡地はマンション化が進み新しい住民が多く価値観も家庭により違いがある。
- 市内有数の大規模校で中学校区に四つの小学校から入学する。家庭は教育に対する要求は高く、進路の意識も高い。
- 生徒は学習活動・特別活動・部活動に意欲的に取り組み、教師との信頼関係も良好のなかで学校生活を送っている。
- 教員経験10年未満の教員が全体の2分の1弱を占めており、授業力の向上が課題である。

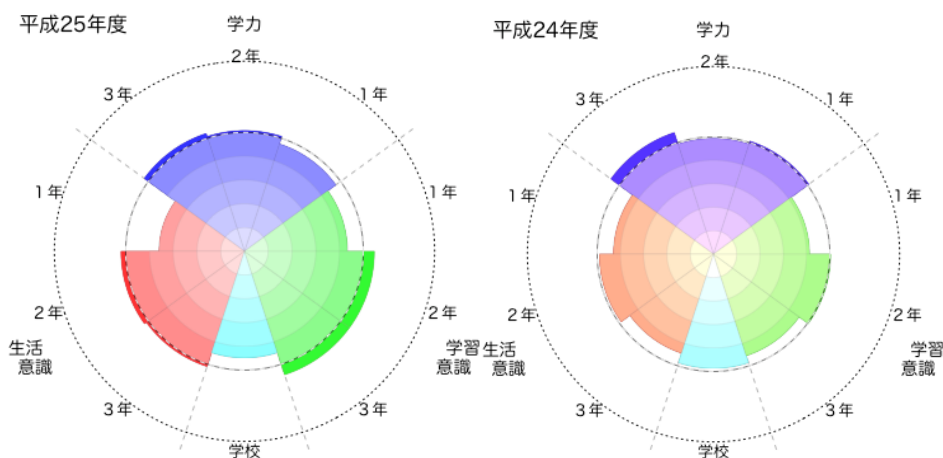
2. 今後3年間の方針(中期学校経営計画)

- ア. 基礎・基本の定着をめざし「個に応じた指導」を充実させるとともに、「生徒による授業評価」を実施します。
- イ. 生徒理解を一層努めるとともに、自己肯定感を高め、充実した進路指導の実現に努めます。
- ウ. 読書等の時間を設定して、授業に取り組む環境をつくり、生徒授業評価で「わかった感」を高めます。
また、多様な価値観を「認め合う」豊かな心が育つ学校行事を実施します。
- エ. 教職員が授業力向上に努めるため、互いに授業を見合い、授業研究を行うと同時に、各教科生徒の思考力・判断力・表現力を高める指導を重点的に取入れます。

3. 横浜市学力学習状況調査等からの実態把握

(1) 学力の概要と要因の分析

いくつかの教科で課題がみられるが、全体的に学力については横浜市の平均とほぼ同じである。
学習意識については、1年生は平均を下回っているが、2、3年生は市の平均を上回っており、意識が高い。
生活意識についても、学年によって差が生じている。



(2) 教科学習の状況

国語科: 全学年において読む・書く力は標準だが、知識・理解に課題がみられる。

社会科: 一般的に学習意識も高く、昨年度より学力が向上した。

数学科: 2、3年生は全体的に市の平均とほぼ同じである。1年生においては、学習意識が低く、基礎学力の定着が課題である。

理科: 全学年ともに学習意識が高いが、1年生の思考・判断に課題がみられる。

英語科: 2、3年生の全観点において、市の平均とほぼ同じであるが、1年生においては、学習意識が低いので、授業改善に努めたい。

(3) 経年変化の状況と要因の分析

学校全体として教科への学習意識は向上しており、学習することの意義を感じている生徒が多い。学年が上がるごとに、家庭学習の時間も増えている様子がうかがえる。しかし、教科、学年によっては、学力層がCD層にあたる生徒が市の平均よりも多い。今後は生徒の学力差を考慮した授業改善が必要である。また、授業で「個に応じた指導」を充実させることが必要だと考えられる。

4. 平成26年度 目標と具体的方策

3 平成26年度 具体的方策

- 教科内研究授業を行い、教員が互いに授業力を高め合うことを大切にします。
- 授業を通し、思考力・表現力が身に付く生徒の育成を目指します。 (平成26年度目標)

(1) 教員一人ひとりの授業力向上への取組

ア. ウ 見通しを持って「思考力・判断力・表現力を育てる指導」と授業改善

・ 少人数・習熟度別学習等の「個に応じた指導」の工夫・改善

施設の不足のなか、少人数指導について、時間割を工夫しながら実践する。また、落ち着いた学習環境を自らつくり基礎・基本の定着を図ります。

・ 「生徒による授業評価」に基づく授業改善

全教科で前半と後半の年2回に「生徒による授業評価」を実施し、「評価」をもとに生徒の意識や意見を把握し、授業・指導の方法の改善の機会に役立てます。

ウ・エ. 互いに授業を高め合う取組

・ 授業を見合う教科内研究授業を設定

教科会を活性化し、教材の共有や工夫を行う。また、互いに授業を見合い、指導の「良い点」や「改善点」を指摘し合うことによって、自分の指導の改善にも結びつけます。

・ 思考力・判断力・表現力を高める指導の充実

生徒の課題である考える力等の定着を目指し、各教科で自分の考えを相手に伝え合う活動等を通して、生徒一人ひとりの思考力・判断力・表現力を高める指導を充実させます。

・ 読書や自ら課題を選び、学びの環境の充実

朝の10分間を活用し、読解力を身につけると同時に自ら課題を選び学習する力の育成を目指し、落ち着いた環境で授業に取り組めるようにします。

(2) 学校組織としての取組

イ. 生徒指導・生徒理解の充実

・全教職員による生徒理解

学年を超えて生徒理解と情報交換を行います。そのために生徒理解研修計画を建て、年3回の研修を行います。

・「道徳」授業の推進

道徳の授業で、子どもの発達状況や学年に応じた課題に合わせ、多様な価値観を認めることの大切さを育みます。また、道徳と教科の関連を考慮し、基本的な生活習慣・集団生活のルール等の意識の向上に努めます。今年度は道徳授業力向上推進校として、全校道徳、道徳の職員研修会を展開します。

・学習習慣の定着

定期テスト前の3週間にわたる朝学習を実施します。また、長期休業中に基礎学力が十分でない生徒を中心に各学年「学習会」を実施し、基礎学力の定着を目指します。

ウ. 生活習慣の改善

・基本的な生活習慣の確立

「全国学力・学習状況調査」の「起床・就寝時間」「携帯電話・インターネット」等の使用の改善とメール・プロフ、SNS等の基本的な知識と自己規制に向けた説明等を行い、正しい活用法を理解させます。

・「教育相談」の充実

学級活動や関連教科の指導を通じて、ルールやマナーの定着を図ります。また教育相談を通して、学習の取組

や学習習慣、家庭学習の定着に向けて個別に適切なアドバイスをします。

学力向上アクションプランの検証と授業評価・学校評価

- 評価計画
- 授業評価（関係者5回）
- まちとともに歩む懇談会（年2回）